

## 地方独立行政法人山口県産業技術センター評価委員会（第22回）の審議要旨

- 1 日 時 平成29年8月4日（金） 14:55～16:00
- 2 場 所 （地独）山口県産業技術センター 第1研修室
- 3 出席者 進士委員長、上田委員、加登田委員、河村委員、中島委員  
(委員長以外50音順)

### I 報告事項 ●委員 ○センター □事務局

前回評価委員会（第21回）の審議要旨について

- ・資料1により、事務局から説明。

《各委員了承》

- ・センターより、前回示した平成28年度市町別技術支援状況のうち、依頼試験について、コンクリート等圧縮試験の状況を追加し、その減少理由等について補足説明。

○コンクリート等圧縮試験については、県内の他の検査機関においても減少しており、減少要因は、公共事業の減少やプレキャスト工法が増加していることなどによるものと考えられる。こうした状況も踏まえ、今後の対応について検討していきたい。

### II 審議事項

- ①平成28年度における業務の実績に関する評価及び第2期中期期間における業務の実績に関する先行評価について

《質疑応答・意見交換》

#### ＜共同研究について＞

●平成29年度から、企業と企画段階から共同で研究開発に取り組む「製品開発チーム」を設置されているが、マーケットへの対応も含め、具体的にはどのような取組を行っているのか。

○アイデアは持っているが、まだ製品化していない企業や、既に製品化しているが、見直しを図りたいという企業と再度、企画段階から共同で研究開発に取り組むこととしている。なお、マーケットへの対応については、（公財）やまぐち産業振興財団や地域商社とも協力しながら、情報収集しマーケットに合ったものを開発していきたい。

#### ＜特許使用料について＞

●昨年度に特許の存続期間が切れ、特許手数料が減収となることを懸念している。昨年度に比べどの程度減収となるのか。また、減収分に対しどのように自己収入を確保していくのか。

○昨年度に比べ約900万円の減収となる。特許使用料は発明者とセンターで折半しており、実質的には約450万円の減収となる。現在、オーダーメイド試

験の利用件数、金額、利用事業所数はともに増加しており、オーダーメイド試験などの特色ある取組により、自己収入の確保に努めていきたい。

### <異業種交流について>

- 企業のマッチングについて、異業種交流といった視点からの取組が必要と思うが、そうした取組は行っているか。
- 医療・環境分野では異業種交流を行っているが、他の分野では少ない。現在は、基本的には、センターの技術を各企業が利用する形態となっているため、こうしたことについても検討していく必要がある。ただし、異業種交流を行うに当たっても、まず核となる技術をセンターで作っていくことが大前提であり、その上で、異業種とのマッチングに繋げていけるよう取り組んでいきたい。

### <評価書案について>

- ・評価書（素案）について、資料3により事務局から説明。
- 特許の存続期間が切れ、特許手数料が減額になることと今後の対応について、先行評価に記載していただきたい。  
記載する。
- 28年度の評価書の「全体的な状況」に、今後、法人において取り組むべき内容を具体的に記載していただきたい。  
記載する。

#### 《各委員了承》

※評価書の確定に当たり、評価の結果に影響がない範囲の修正等であれば、委員長に一任することとし、各委員の了承を得た。

#### ②平成28年度における財務諸表等について

資料4により、事務局から説明。

《質疑等なし、各委員了承・意見書の決定》